

いつも、そこに、うるし

～紙バンドを利用した衝立～

A2201312 佐野 春菜

研究の背景

近年、クールジャパンなど、海外からの日本文化への関心は高い。それに加え、2020 年に開催される東京オリンピックなどにより、日本に対する世界の注目度が更に上がってきている。それに伴って、訪日する外国人観光客が増加の傾向にあり、宿泊施設の増設や、外国人を対象とした施設の改装が、国内各地で行われている。部屋の内装などを外国人に喜ばれる日本風の造りにする中で、日本の文化を伝える意味でも、漆を活用することも有効ではないだろうか。それは、決して外国人に向けたものという範囲にとどまらず、現代の生活様式に合った漆の在り方を提言することにもつながる。

研究の目的

従来の漆製品には見られなかった展開を考え、漆がより身近な存在として感じられるようなデザインを考案することが研究の目的である。それに伴い、海外の人にも伝わりやすい漆製品を提案出来たらと考えている。そこで、漆を利用し、和風な造りの部屋で使用できるような作品を制作する。

研究のプロセス

【外枠】

1. デザイン検討

一般的な衝立の大きさを参考に寸法は
縦 1500×横 450×厚さ 20(mm)
上下に格子を付け、和風なデザインにした。

2. 木地作成

日常生活での使用を考え、堅くて丈夫な
ブナを使用。

3. 固め

4. 摺り漆

木地の木目を生かすために、生漆による摺り漆
を活用。

5. 組み立て

【漆バンド編み部分】

1. デザイン検討

紙バンドの幅・漆の色・編み方などを検討。

2. テープ裁断

外枠にはめ込むため、
縦の紙バンドを 1050mm・12 本どりと 4 本どり、
横の紙バンドを 450mm・4 本どりと 8 本どりに裁
断。

3. 摺り漆

縦の紙バンドには生漆と緑の色漆を、
横の紙バンドには黒呂色漆と生漆を使用。

4. 編み

デザインを参考に縦横の漆バンドを編む。

5. 固定・端の処理

6. 組み立て



木地(ブナ)



紙バンド(12本どり)



漆バンド編み部分の試作



摺り漆(紙バンド)乾燥



編み



摺り漆(木地)

成果物

漆と編みを利用した衝立を制作した。生漆の色を生かし、全体を摺り漆で仕上げた。編みにはアクセントとして、緑色の色漆を部分的に使用した。

考察

漆を使った衝立を制作することで、漆の存在を部屋という空間の中で大きなものにできるのではないかと考えた。

制作の中で、通常ならば漆を塗らない素材に漆を使用したため、はじめは勝手が分からない場面もあった。予想していたよりも多くの漆やクラフトテープが必要になることや、同じ作業をおこなっても乾燥後の色が異なってしまうなど、戸惑うことも多かった。しかし、回数を重ねることで、作業に慣れることができたように思う。また、木地作成の際には、これまで使ったことの無い機械を使用して木材を加工することがあり、貴重な体験をすることができた。

最初に思い描いていた完成予想とは大きく異なったものになったが、最終的には良いものを作ることができたと感じている。